



*午前5時予報・明け方3時頃まで雨、その後曇りで実施決定。午前9時倉庫前に植栽指導員など関係者集合。ミーティング：出欠・植栽位置確認、植栽方法、とにかく埋め戻し時に草を植穴に入れないなど。そして各班必携品配付(班旗・ぼかし肥料・苗木袋・剣先 園芸シャベル・シュロ結索ひもなど)

***山に木を植えることは、栗や栃の木を植え、有用林をつくり農耕なしで500人ほどの定住生活をしてムラをつくった、8千年前の縄文の時代より、木の有難さを知り、木々に感謝する日本人のDNAか**

*9:30より受付開始、電話などで事前応募された方。遠く鶴見からのご家族の方々を照合し、班シールを渡し、広場に並べられた班の旗の後ろに。持参ペットボトルに水入れの声を聞きながら

*9:40より望月司会により開会式。酒井より：木は何を食べているのかな？など植樹祭主旨説明後に、サクラ3苗木の掘り起こしのため管理棟横に移動。その後ツバキ1・モミジ1を掘り起こし苗木袋入れ出発。圃場の苗木は既に3m以上の成木に、仮植えされていた根は大きく、袋入れに苦勞する。苗木の確保重要

***クロモジ**のポット苗3、丈は1mで事前に現場の植穴に。参加者に問いかけ「クロモジの木を知っていますか？」みな様は不可思議な顔。クロモジの木からつくられるのはこれです、カバンから千両箱。そして中から10cmの扇子型の楊枝を掲げる。江戸時代から日本橋で楊枝だけの商いで、現代まで250年の**さるやの楊枝**。クスノキ科のクロモジはカンフル剤の殺菌精油を大量に含むため、平安時代のお雛様も歯ブラシにしていた、日本の里山に普通に生える凄い木(入手先・県森林組合連合会・ネットより価格は1/3、しかし種苗家まで取り行く)

*軽トラで浄化センターまで、根に大量の土のツバキとモミジは現場までの僅かな登りも大苦勞

*植穴にぼかし肥料を先ず入れ、底土との混ぜ合わせより各班の植栽が始まる。子どもながら剣先の大きなシャベルで懸命に土を掘る子、軍手をしっかりとて園芸シャベルで土を掘る子、子ども用の大きなプラスチックのシャベルで土を掘る子、そしてトカゲが出てきて大泣きをする子、ミミズを見て驚く子など、そこかしこ家族みんなで一生懸命に木を植える姿。最後は探偵団用意のお茶とお菓子でニコリ

***子ども時代に**手で目で体全体で自然に接する姿。そして後で植えた木を散歩で見に来ようね、とお孫さんに話をされる声があちこちから。そして帰り際の駐輪場で誰に言うまでもない**「いいイベントだったなあ！」**と実感のこもったお父さんの声が聞こえた。広町で植樹祭を、多くの方々が興味を持たれ参加され、植樹祭をして良かった、を思わず実感した第12回植樹祭だった

*参加者：一般・子ども9名+保護者11名、森の会+賛助者10名、探偵団子ども7名+保護者6名+スタッフ2名 総計45名<森の会：砂村 望月 本田 中田 西田 石井 酒井+稲垣 柴田 宇都宮 内田>

*次回作業：6/4・日 七里ユリ・富士見坂ユリ群生地の茎周辺の特種草刈と支柱立て

